

パンを食べて、夏の暑さを乗り切ろう!

いつも「Café & Bakery bien」をご利用いただき、ありがとうございます。
 先般、NHKニュースで、総務省統計局が実施する「家計調査」において、比較が可能な昭和38年以降、昨年はじめて1世帯あたりのパンの購入金額(28,368円)が、お米の購入金額(27,780円)を上回ったと報じていました。“日本人もよくパンを食べる”ということが、数字でも裏付けられたということでしょうか…。

今回は、暑くてご飯作るのが…とお思いの方でも手軽に食べられるビアンの「惣菜系パン」のいくつかをご紹介します。

■クロワッサンサンド…200円/1ヶ

玉子か、ハム&チーズがサンドされたもの2種類があります。クロワッサンの食感が玉子やハム&チーズがマッチして美味しい!



クロワッサンサンド

■ウインナーロール…170円/1ヶ

大きなウインナーが特徴で、当店の人気商品の一つです。



ウインナーロール

■枝豆チーズパン…120円/1ヶ

枝豆とチーズのダイス(さいころ状)をパン生地まぶして焼き上げ、薄い塩味のさっぱり風味のパンです。



枝豆チーズパン

■完熟トマトのポロネージュパン…120円/1ヶ

トマトのミートソース味のピザ風パンです。



完熟トマトのポロネージュパン

■カレードーナツ…100円/1ヶ

ややスパイシーなカレーで、かりっと揚げたカレードーナツ(パン)です。



カレードーナツ

ビアンは、

☆地域のみなさまに気軽にいただけるようにホットコーヒー一杯200円で提供!

☆美味しい焼き立てパンは1個100円から各種提供!

☆障がい者作業所のクッキー販売支援!

をしています。

Café & Bakery

ビアン bien

新生

●営業日：月～土曜日(日・祝日定休日)
 ●営業時間：8:00～17:00
 ☆モーニングサービス：8:00～10:30(住所)
 〒557-0025 大阪市西成区長橋3丁目7-28
 (tel/fax) 06-6568-3443



発行日 2012年8月1日
 創刊日 2007年11月1日
 発行所 株式会社フェイス
 代表取締役 置田一幸
 (南前山企広
 大阪市西成区長橋3-6-33
 06-6563-1156
 info@nice.ne.jp
 http://www.nice.ne.jp/

H P

詳しくはフェイスブログをご覧ください

フェイス

ブログ

をご覧ください

フェイス

ブログ

をご覧ください

フェイス

ブログ

をご覧ください

第10回 蓄音機



19世紀末の
 螺旋式蓄音機

私が最初にレコードというものを聞いたのは、
 ものでござるのついで4~5才の頃ではなかつ
 たらうか。親父が音楽好きだったので音楽は
 比較的身近にあったというのが理由かもしれ
 ません。

蓄音機とはレコードプレーヤーの前身です。
 レコードを回転させるための回転台（ターン
 テーブル）となるゼンマイのようなおもりを
 使ってモーターを動かします。ターンテーブ
 ルに載せられたレコードを回転させるための
 装置なのです。わかりやすくいえば、蓄音機
 はからくり仕掛けとっていいでしょう。だ
 から現代のプラグをコンセントに差込んで電
 源を取るといような近代的電動マシーンで
 はありません。L字型のハンドルを本体に突



我家にあったトラシク型の
 ポーター蓄音機

き出し、同時に針を落としたりしたレコード盤も回
 転して、音源から出る音声をチューリップ型
 のスピーカー（ホーン）から再生させるので
 した。

私の家にあった蓄音機は、それより少し進
 化した時代のもので、スピーカーは蓄音機の
 トーンアーム部（レコード針）に搭載されてい
 て、そこから音が再生されています。私は
 蓄音機のシステムなどわからないから、機械
 本体から音声を発しているの、蓄音機の中
 に人が入って演奏していると信じていたので
 す。音楽が鳴っている間、蓄音機のモーター
 が回る薄暗い機械部を覗きながら、どこで演
 奏している人がいるののだからと目を凝らし、
 レコードを聴くたびに、大人たちに笑われた
 経験がありました。

レコードを再生する針は鉄針といい、2セ
 ンチぐらいの長さだったでしょう。今のよ
 うにダイアモンドやサファイア針など勿論な
 く、単なる安物の金属針なので、レコードの
 溝を回転するだけでなく針が磨耗し、レコー
 ドを深く傷つけるのです。そこでレコードを



が歌ってヒットしました。また「バレンシア」
 というクラシック曲もよく聞かされました。
 「サ・セ・パリ」も「バレンシア」も共にスベ
 ンの作曲家ホセ・パディーリヤの作品で、
 戦後、宝塚劇団のレヴューの演目にもなっ
 ていたらしく、ツカファンであった親父はそ
 の影響でレコードを購入していたのではない
 かと想像します。

これらSPレコードは、新時代のレコード
 プレーヤーなど音響製品の出現に伴うEP、L
 Pレコードの登場によって、徐々に親父の蒐
 集品から撤退していきましました。オーディオ製
 品の進化に伴い、カセットテープ、CDやダウ
 ンロードを楽しむ iTunes などのイ
 ジーナ聞き方とはちがい、アナログレコー
 ドを聞く作法は大変面倒なものでした。蓄音機
 にレコードを載せる、レコード面に傷がつか
 ないよう針をセットする、レコード面のほこ
 りを取る、針の取替えをする、などなど手入
 れの楽しさがアナログレコードを聞く楽しさ
 でもあったのです。今から思えばLP、EPレ
 コードなどと比べる

と音質的な差はあり
 ますが、音楽を身近
 な友にする道具では
 あったのでした。

あと「サ・セ・パリ」なんていう行進曲風の
 レコードがありました。この曲はフランス賛
 美のシャンソンで、後年エディット・ピアフ



親戚宅にあった同型の
 電気蓄音機



毎金曜日に首相官邸前を埋め尽くす反原発デモがすごい！ 18 年後の 2030 年に原発の発電率を 0%、15%、25% のいずれにするかの議論が始まって、もちろんデモ参加者は 0% をめざしているのだらう。電力会社も原発維持で論戦に参加し、福島を加害を忘れたかのような振る舞いが火に油を注いでいるかのようだ。民衆のデモにも似た高揚で政権交代を実現したのに、まったく民意を汲み取るうとしないから、オキュパイ、つまり「論」を占拠するという戦術が共感を呼んでいるのだらう。デモ参加者は若者や子育て中の母親が多く、続いて高齢者となっているようだ。テレビ報道で、ボクと同じ世代の人たちが、自分たちは一生懸命働いて、次の世代を育てようとしたつもりだったが、実は、どんなに重い負担を背負わせてしまったという声が聞こえてくる。身が縮む思いだ。

ボクは、反原発デモに、「橋下旋風」とほとんど同じ空気を感じている。「悪者」は少数が通常だが、どうもいまの日本では多数のようだ。原発の脅威なほど消してしまっただけで、繁栄を求め対価を得た。一方で、財源など省みることなく分配を求め、「総中流」という対価を得た。共済年金に企業年金、そして厚生年金にも税金を注ぎ足す、考えてみれば、あまりにバランスを欠いた分配で、そこから排除された人々のこと、ましてや、その後の世代をも排除

してしまうことなど省みなかった。「総中流」とはそう見えただけで、いまや、完全に社会は三分割された。1% の富裕層と、年齢が高く男性が多い中流層と、そこから排除された人々の層だ。橋下改革は、そこを突いて、三層をガラガラポンにしようとして燃つて旋風になった。

さて、問題はこれからのことだ。旧知の中川治衆院議員は、消費税や TPP 等に賛成するほどの鉄面皮は持ち合わせておらず、かといって、その昔は学生運動でもリーダーだった人なんだが、我、常に正義という小沢新党に参加するほど軽薄でもないものだから、孤塁を守っておられる。その中川さんから、「日本は太陽と光と水に恵まれた国で、自然エネルギーの宝庫なのに、原発にかまけて、この分野に研究資金を使ってこなかった」というメールをいただいたが、その後の政治行動に注目したい。連合会長の古賀さんという人とは、ずっと昔、選挙活動でわずかな時間を共に過ごしたことがあるし、自治労委員長の徳永さんは西成の出身で旧知だが、ともに、ボクと同じまもなく選層組だ。「守旧」の代表と化してしまっただけの、時間が少組合をどう再生させるのか、時間はないし、辛いけど「贖罪」からしか始まらないような気がするが、せめて一石だけでも投じて欲しいと思う。ボクもそうありたい。

（関ナイス代表取締役 冨田一幸）

福島の原発

反原発デモがすごい！

Aダツシノ祭

楽しい！ おいしい！ 和気あいあい！

今年のAダツシノ祭りは「楽しい」ということをテーマに掲げています！ スタッフ、来館者、出店者みんなが楽しいと感じながら祭りを盛り上げていける環境づくりをしていきます！ みなさまのご参加をお待ちしております！

2012年 9月 16日(日) 11:00 ~ 16:00

● 場所 Aワーク創造館 (消速区木津川2-3-8)

● 企画内容 リサイクルマーケット、屋台、受講生による出店や成果発表 etc

● 主催 Aダツシノ祭実行委員会

入場無料・雨天決行・無料駐車場あり(満車の際はご了承ください)

企画参加
フリマ出店
イベントサポーター
募集します！

※企画参加は当館受講生(OB含む)・講師・関係者の方に限ります。

※企画参加は講座・グループ単位でお申込み下さい。

※内容が似たりくなくと実行委員会に判断される場合は、またはスペース等の理由により参加をお断りする場合がありますので予めご了承ください。

企画参加者 募集

あなたも他の受講生の方と一緒に参加しませんか？ 作品展、同窓会などを企画・運営して下さい！ (実行委員会への参加をお願いします)

● お申込み 申込み締切：8/31 (金) まで
まずお電話ください。
TEL.06-6562-0410 (担当：田中)

イベントサポーター 募集

準備や祭当日のプログラム配布などをお手伝い下さい！ 当日のみの参加もOKです。

● お申込み 申込み締切：9/7 (金) まで
下記申込み書をお送り下さい。
FAX: 06-6562-1549 (担当：田中)

フリマ(リサイクルマーケット)出店 募集

資格 … どなたでも
出店参加費 … 雑料 (前180cm一台を用意します)
※ 足跡物、飲食物、生動物の頒布不可
※ 製菓行商 (精進出店) 不可

● お申込み ※満席になり次第受付終了

下記申込み書をお送り下さい。

FAX: 06-6562-1549 (担当：坂田・福田)

お問合せ

TEL.06-6562-0410

「Aダツシノ祭」実行委員会事務局・田中



今年もやります！ 納涼盆踊り大会

夏の恒例行事、「西成区北西部まちづくり推進納涼盆踊り大会」が8月3・4日の2日間にわたって、長橋3公園にて開催されます。子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる「盆踊り」。当日はおでんや焼きそばなどの安くておいしいお店がいっぱい！西成支部青年部は「コイン落としゲーム」でお店を出しますので、友達誘ってぜひご参加ください。

開催日：8月3日（金）・4日（土）午後7時～10時まで

場 所：長橋3公園（鶴見橋中学校 北側）

私の節電方法



私のお母さん
変なものが大好きなんです。

それは『怖い話』。

とくに科学では証明できないというテーマの
心靈写真テレビなんてしてたら
用事なんてそっちのけ！
テレビの前から動きません。

『怖くないの？』って尋ねると
『面白いよ』って笑顔で答えるお母さん。
ブラウン管になんともいえない映像が映ると
私はキョッと目を閉じた。
恐る恐る目を開けてお母さんを見てみると
ニクニクしながら映像を見てた。
私はそんなお母さんを見てしまつて・・・
ちよつぴり背筋が冷たくなりました。

暑い夏、ニクニクしてたお母さんを見出し
節電に協力しようと思いましたがワクワク！！

M A



ブリキの太鼓



監督：フランク・ヴァイツ
原作：ギョントナー・グラス
脚本：フランク・ヴァイツ
音楽：モリス・ジャール
脚本：ルイ・ド・ベネ
製作：フランク・ヴァイツ
配給：IMAGICATV

1999年にドイツ出身のギョントナー・グラスはノーベル文学賞を受賞した。その後2006年に出版された自伝の中で、17歳の時、自らがナチの武装親衛隊に所属していたことを告白し世間を驚かせた。とくに1959年に発表された長編小説『ブリキの太鼓』で大きな評価を得て有名になった作家だったが、彼のナチスへの過激な言動が世界でグラスへの断罪が相次いだことを記憶する。作品は受賞20年後にシユレンドルフ監督によって映画化された。

映画は、第一次大戦以前のオスカルの祖母や両親たちのエピソードから、オスカルの誕生の第一次大戦の始まり、そして1945年の第二次大戦で敗退するドイツの終焉までを、複雑、隠微でグロテスクな寓話として描かれる。いわばドイツ生活史の一側面を戯画化したのが『ブリキの太鼓』だった。

話はそれるが、同様にその国の現代史を奔放に解釈したテオ・アングプロロス監督の『旅芸人の記録』（ギリシヤ）や、クストリツァ監督の『アンダーグラウンド』（ユーゴスロバキア）など素晴らしい作品が印象に残る。いずれ「この逸話」でご紹介をしたいと思うが、『ブリキの太鼓』を含めこれらの作品の共通をなすものは、自国の歴史の闇

を暴き出し、それを直載な現代史物語とはせず、寓意あるいは暗喩などの修辭を駆使して映像化していく興味と新鮮さに特色があった。

封切り当時、単純にドイツ映画というくくりで、しかも大人の世界に愛想が尽きたオスカルが3歳になって成長を拒否するために自傷する、猟奇と少しばかりのオカルトを味付けした自国ドイツの鬱鬱（げんげ）的映画と見ていた。しかし、映画の背景は第一次大戦後のベルサイユ条約によって、敗戦国であるドイツから自由都市となったバルト海に面する港町ダンツィヒ（現ポーランドの都市グダニスク）である。ドイツ支配が強い都市にポーランド人やユダヤ人、スラブ系少数民族など多くの民族が集積している。この頃ドイツ帝国の再来を喚起し、ポーランド人を迫害する機運が大きくなりつつある時代で、結果的にナチスの台頭を誘うことになっていく。

主人公のオスカルは、ポーランドとドイツ籍を持つ2人の男と、スラブ系カシューブ人女性との間に生まれるという異常な設定で、それはグラスの両親も多国籍であったということと重なり、また多国籍都市ダンツィヒとドイツの特殊な関係性をも浮き彫りにする、という背景の難しさを改めて知ることが出来た。

オスカルが誕生日に送られたブリキ製の太鼓をたたいて大声で叫ぶと、周辺のガラスが破壊されたり、オスカルの母が魚を食べ続けて死亡するというエピソードがあったり、3歳で成長が止まっているオスカルが、小人たちの巡回するサーカス団に共感し入団して、ナチスドイツの慰問をする場面など、数々のシチュエールで奇妙な、ちよつと不気味なシーンを見せられる。

自らの生い立ちと社会の潮流の中で、ドイツ人でもポーランド人でもない、ひたすら自分の人生を送ることの大切さを知り、第二次大戦後の21歳の時再び成長をはじめ、オスカルは新しい旅立ちをするところ。話は終る、がこれはオスカルの新生なのかあらたな進走なのか、もうひとつ伝わってこなかったのが残念な結末だった。

hiderimaki

